

1. この会社が目指す姿が理解できるか

理解できる。『快適な生活空間の象徴である「豊かな大地」「豊かな街」をつくる』という企業ビジョンの下で

2. この会社の競争優位性が理解できるか

理解できる。特に日立製作所の時から受け継がれている高い技術を基盤とした知的資本や世界 100 以上の国と地域で事業を展開しているという社会関係資本は際立って優れており、その技術のノウハウが社内で広く共有され、かつ世界各国にネットワークを張り巡らせ拠点を置いていることが様々な事業への参入を可能にしている。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

理解できる。日立建機はデジタルトランスフォーメーションに力を注いでおり、デジタル活用能力を強化することによって他社が模倣できない業務革新力を得ようとしている。これによって前項で述べたような技術力がより一層強化され、また様々な面での業務のデジタル化によって世界各国との提携が取りやすくなり、グローバルな事業展開を行えると考えられる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

15-16 ページの競争優位性についてのページに記載されている人的資本の欄には『グローバルで共有する価値基準・行動規範「Kenjijin スピリット(日立建機のありたい姿を理解し、その実現のために自ら行動する「Kenjijin」の心構え)』『経営幹部を含む主任以上を対象にした「自己変革プログラム」受講』『高い専門性・スキルを有する人財力』などとあった。しかしいずれも具体性に欠けており、企業に身を置いていて向上させることのできる人的資本の価値をこの統合報告書から推察することは難しい。よって自身の人的資本の価値向上は達成できないと考える。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

売上収益がグラフ化されており、業績の伸びが可視化されて理解しやすくなっているのに対し、連結財務諸表は数字だけが記載されており一見ただけでは企業の成長が理解しにくく感じられた。そのため、売上収益同様いくつかの項目(特に伸びが顕著な純資産、自己資産など)をグラフ化することによって読者の企業理解がより深まり、堅調に成長している

会社という印象を与えることができるのではないかと考えた。

また事業内容は丁寧に説明されていてよく理解することができたものの、実際に働いている社員に関する情報が少ないように感じられた。社長インタビューだけではなく、一般の社員にもインタビューを実施することで企業の魅力などをより伝えられたのではないか。